

### **E-3 Bortezomib+Dexamethasone 療法後に同種ミニ移植を行った自家移植後再発多発性骨髄腫の2例**

林 敏昭<sup>1</sup>、安井 寛<sup>1</sup>、川上賢太郎<sup>1</sup>、池田 博<sup>1</sup>、高橋文彦<sup>2</sup>、西村 進<sup>3</sup>、石田禎夫<sup>1</sup>、  
今井浩三<sup>4</sup>、篠村恭久<sup>1</sup>

札幌医科大学第一内科<sup>1</sup>、市立釧路総合病院内科<sup>2</sup>、町立別海病院内科<sup>3</sup>、札幌医科大学<sup>4</sup>

【目的】多発性骨髄腫（MM）に対する自家移植は生存期間を延長するが、再発の可能性が高く、再発例に対する有効な治療法は定まっていない。また、近年、再発・難治性 MM に対して bortezomib や thalidomide の有効性が示されているが、副作用のため継続できない例や二次無効例も多い。一方、同種ミニ移植は初発 MM に対して自家移植とのタンデム移植を行うと有効との報告があり、治癒の可能性がある治療法として期待されている。自家移植後に再発した MM の 2 症例に対し bortezomib+dexamethasone (BD) 療法を含む治療後、同種ミニ移植を施行し有効性を検討した。【症例】症例 1 は 47 歳、男性。2004 年 11 月に MM (IgG -  $\kappa$ , DS IIIA) と診断。VAD 療法 2 コース後、2005 年 6 月に自家移植。腹腔内残存腫瘤に対し放射線照射後、2006 年 2 月に 2 回目の自家移植を施行。その後、M 蛋白が徐々に増加したため、2008 年 1 月より BD 療法を 2 コース行った後、同年 6 月に同種ミニ移植を施行した。症例 2 は 51 歳、男性。2006 年 9 月に MM (IgA- $\lambda$ , DS IIIA) と診断。VAD 療法 3 コース後、2007 年 3 月に自家移植。同年 12 月から IgA が漸増したため、2008 年 3 月から BD 療法 3 コースと thalidomide, cyclophosphamide 併用療法とを行い、同年 7 月に同種ミニ移植を施行した。【結果】2 例ともに同種ミニ移植後 M 蛋白は消失し、現在まで持続している。【結論】同種ミニ移植は自家移植後再発 MM に対し有用であると期待される。